



Title	大阪大学のオープンアクセス出版促進に向けた支援状況について
Author(s)	三木, 保孝
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/73727
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



大阪大学の オープンアクセス出版促進 に向けた支援状況について

「学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在」

日時：令和2年1月24日（金）14:00～17:00

会場：大阪大学生命機能研究科 生命システム棟2Fセミナー室

共催：大阪大学附属図書館・経営企画オフィス研究支援部門・研究推進本部

大阪大学附属図書館 学術情報整備室

専門職員（電子コンテンツ主担当）三木 保孝

本日の内容

- ゴールドOAへの支援状況
- グリーンOAへの支援状況
- 新しい動き

APC支払状況について①

■各大学におけるAPC支払推定金額

著者所属機関別 公表論文数（2016年）

順位	機関名	公表論文数	フルOA誌		フルOA誌以外		合計		
			OA論文数	APC支払推定額(円)	OA論文数	APC支払推定額(円)	OA論文数	APC支払推定額(円)	OA率
1	東京大学	3,857	595	115,455,167	664	114,132,594	1,259	229,587,761	32.6%
2	京都大学	3,136	457	89,016,229	443	75,262,362	900	164,278,591	28.7%
3	東北大学	2,321	310	58,055,106	370	54,487,626	680	112,542,732	29.3%
4	大阪大学	2,175	351	65,666,578	375	62,652,112	726	128,318,690	33.4%
5	北海道大学	1,939	268	50,524,296	294	38,975,584	562	89,499,880	29.0%

出典：大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE). 論文公表実態調査報告2018年度(公開版). 2019. https://www.nii.ac.jp/content/justice/documents/2018_ronbunchosa.pdf, (参照2020-01-17).

APC支払状況について②

■多い投稿先

雑誌別集計（2016年, APC支払推定額順）

順位	雑誌名	OA論文数	APC支払推定額(円)
1	Scientific Reports	1,424	275,133,888
2	PLOS ONE	1,124	184,472,004
3	Nature Communications	219	125,017,464
4	SpringerPlus	149	49,071,660
5	Cancer Science	181	44,707,905

出典：大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE). 前掲書.

■高いAPCの単価

－ 平均約18万円（フルOA誌）、高いもので50～60万円台

学内助成：英語論文のオープンアクセス 掲載料支援①

■ 概要

研究成果の国際的発信力を一層高め、大阪大学の研究力の強化につなげるため、本学の教員が第一著者ないし責任著者として英語論文を高インパクトの海外オープンアクセスジャーナルに投稿し採録された場合、その掲載料（APC）を支援する。

■ 実施経緯

オープンアクセス誌への掲載費サポートをしていただけで助かります。OAは掲載費が高いので、やはり研究費稼ぎに苦労しており、さらに校費が削減されている研究者は、経済的理由で投稿をためらってしまうことが多いです。このサポートがあると、間違いなく、一定水準を満たした成果を発信する数は上がると思います。（理学研究科 助教）

Nature Communicationsは出版費も高く（日本円で66万円です）、そちらの支援があればいいのと思います。今回は幸い、私の前の所属研究所が出版費を負担してくださるので助かりましたが、そうでなければかなり困った事態になっていました。（生命機能研究科 教授）

- 論文をより読んでもらいたいためOAにしたい研究者が増えているが、研究費で高額なAPCを賄うことが難しいケースも多い。
- このような要望に対して、2019年6月より、オープンアクセス掲載料支援を開始。

学内助成：英語論文のオープンアクセス 掲載料支援②

■ 主な選考基準

論文の掲載誌は **Scopus** に収録されているオープンアクセス誌であること（Scopusの各収録誌詳細ページにOpen Accessのマークが付いているもの）



* Scopusは**DOAJ** (Directory of Open Access Journals)等の基準を使い、即座・フルOA誌（いわゆるゴールドOA誌）のみを認定している。

■ 実施状況（2019年6月3日～2020年1月10日現在）

申請件数	不採択	採択
86	32	54

* 支援金額約1,500万円（平均28万円／件）

* 不採択理由のほとんどは掲載ジャーナルがハイブリッド誌であるため。

学内助成：英語論文のオープンアクセス 掲載料支援③

■課題

大学の立場

VS

研究者の立場

- ハイブリッド誌のビジネスモデルがもたらす購読料&OA掲載料の二重払い問題に対応する必要
- 国立大学として健全でフェアな学術出版に貢献する義務

- OAのタイプ（ゴールド、ハイブリッド）に関係なく、とにかく論文を多くの人に読んでもらいたい、学术界に貢献したい一心
- ハイブリッド誌でOAする場合、大学の助成ある・なしに関わらず、実質公的研究費で賄うことが多い

募集要項は「マイハンダイ」>「大学本部事務機構」>「研究推進関係」に掲載されています。

大阪大学学術情報庫 OUKA

■大阪大学の機関リポジトリ

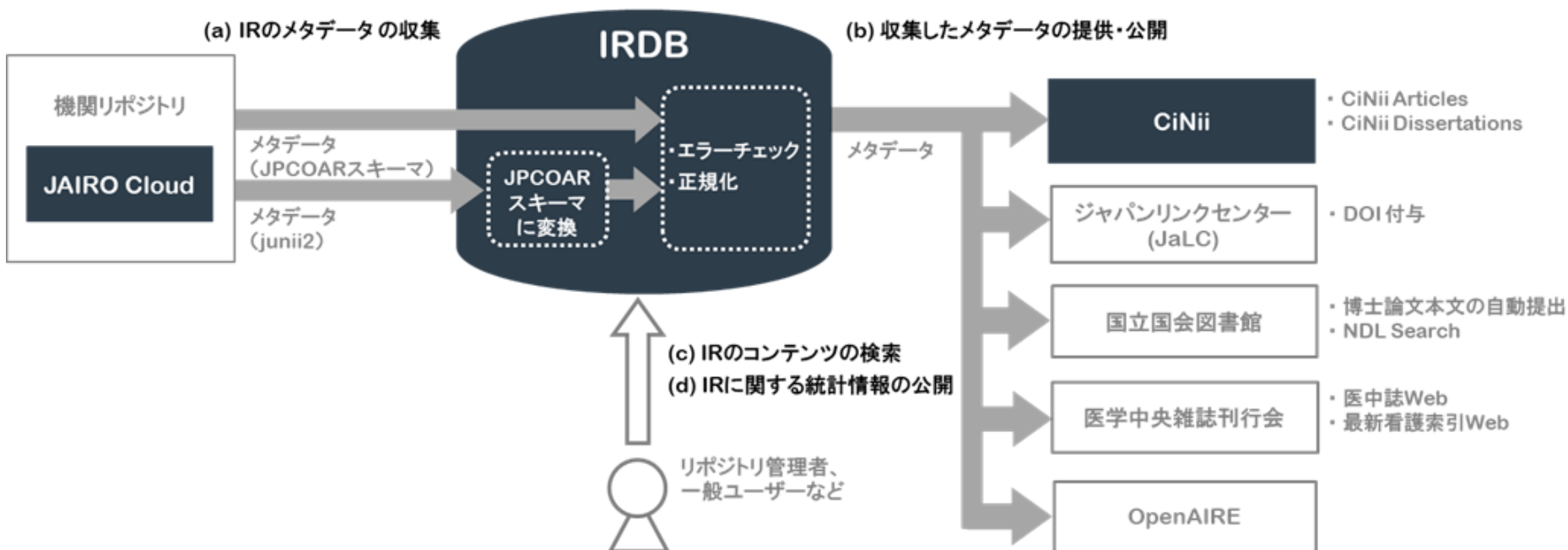
- 本学の研究教育成果発信のためのプラットフォームとして2007年2月から公開（<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>）
- 世界リポジトリランキング・機関リポジトリ部門で世界24位（国内2位）

出典：TRANSPARENT RANKING: Institutional Repositories by Google Scholar (July 2019).
<http://repositories.webometrics.info/en/institutional>, (参照2020-01-17).

■セルフアーカイブ支援

- 紀要や関連学会誌の電子化公開の支援
- 博士論文の公開（H25年度の学位規則改正）
- 学術雑誌論文等の公開
- 出版社等の著作権ポリシーの調査
- 永続的識別子（DOI）の付与

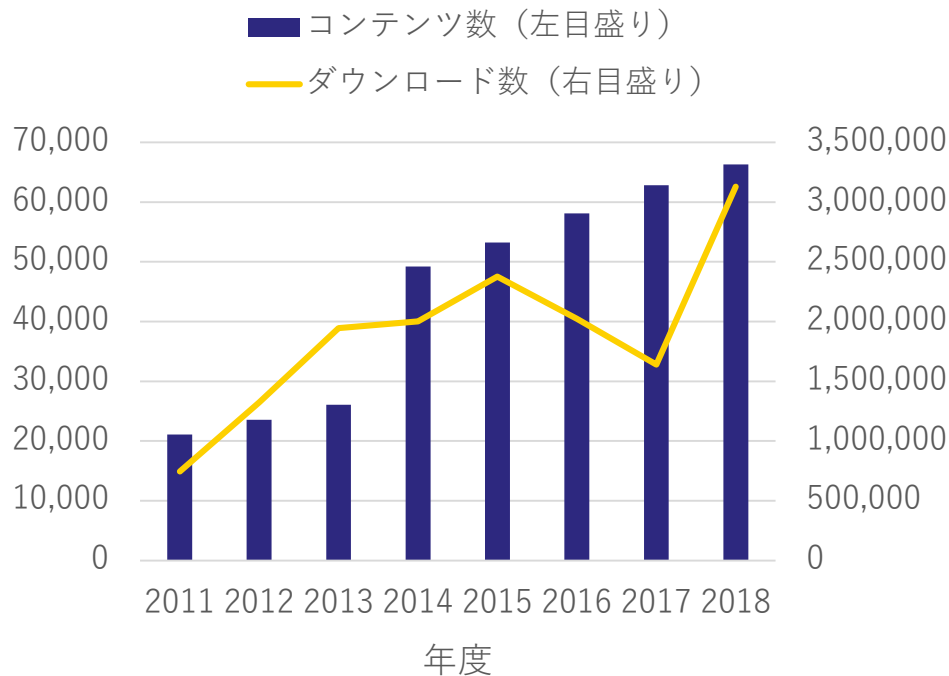
【参考】機関リポジトリのメタデータ流通



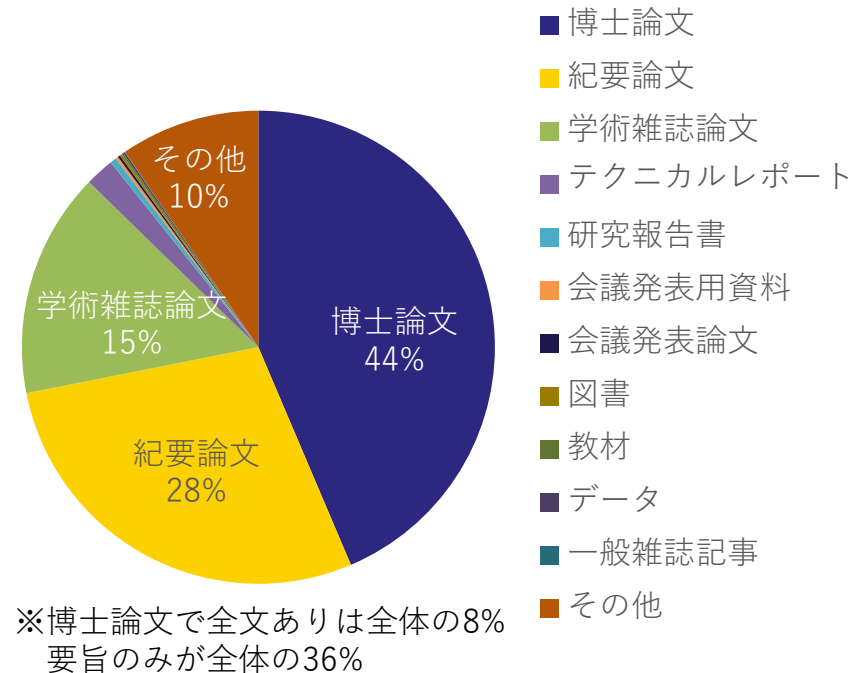
出典：学術機関リポジトリデータベースサポート. <https://support.irdb.nii.ac.jp/ja>, (参照2020-01-17).

Oukaの現況①

コンテンツ数・ダウンロード数



コンテンツの種類



ダウンロード件数 約300万件（2018年度）
コンテンツ収録数 約 6.8万件（2019年12月末時点）
紀要・関連学会誌の収録数 約100タイトル

Oukaの現況②

■新しい使われ方

- 論文のエビデンスデータの公開先として活用

■課題

先生方の声

「機関リポジトリの存在を知らなかった」

「機関リポジトリは紀要と博士論文を公開するためのものと思っていた」

「著者最終稿なんて残していない」

「著者最終稿なんて公開して意味があるの？」

- Ouka、グリーンOAの認知不足
- 学術雑誌論文の「捕捉率」の低さ
- 著者最終稿を提供していただくことの難しさ

OUKAへの研究成果登録方法

①

- 下記お問い合わせ先に研究成果（著者最終稿）をご送付ください

先生方は
これだけ！

②

- 図書館が著作権（出版社のポリシー）を調査します

③

- 著作権上問題がないものについて、図書館が登録作業を行います

④

- インターネットで無料公開されます

大阪大学附属図書館 電子コンテンツ担当

TEL 06-6850-5071（内線: 豊中5071）Mail ouka@library.osaka-u.ac.jp

その他の支援

- SCOAP³への拠出
- arXiv.org会員コンソーシアムへの参加
- CLOCKSSへの参加

新しい動き①

- 「大阪大学オープンアクセス方針（案）」の策定へ
 - － 学内の研究成果を網羅的にオープンアクセスとすることを指すもの
 - － 国内では30以上の機関が同様の方針を策定済み
 - https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53

新しい動き②

■研究データ管理への支援

- － 研究データの保存（研究公正の観点から）
 - 「大阪大学における研究データの保存等に関するガイドライン」（平成27年8月6日施行）
- － 大学としての「オープンサイエンス」の推進へ
 - 職員研修会の開催
 - 「オープンサイエンスの基礎知識：大学と研究データ」（2019.2.19）
 - 「研究データ管理の実際：GakuNin RDMを例に」（2020.1.14）
 - GakuNin RDM実証実験の参加へ

結びにかえて～これからのOA支援～

■知識の普及

- セミナーやFDにより、研究者に対してOA及び学術出版に関連する最新知識・情報を発信

■OAの健康的発展

- 大学として学術出版界等ステークホルダーへの提言機能の強化等により、2021年までのPlan SのOAビジョンの実現に貢献

■OA化のお手伝い

- APC助成プログラムの改善検討
- 機関リポジトリの利用促進

【参考】大阪大学のプロフィール

■沿革

- 1931年 大阪帝国大学として創設（1948年 新制 大阪大学）
- 2007年 大阪外国語大学と統合

■組織

11学部（文・人間科・外国語・法・経済・理・医・歯・薬・工・基礎工）、16研究科、6附置研究所、2附属病院、4図書館、17共同研究施設等

■学生・教職員数（※2019年5月1日時点）

- 学部生15,285名、大学院生8,031名
- 教員・研究員等5,285名、職員等5,122名